

◆ 診療部

診療部長 庄野弘幸

2004年度は、4月から整形外科、泌尿器科の常勤開始から始まった。看護師も増員されたことから、いよいよ1～4病棟まで全病棟がオープンとなり、本格的に病院が動き始めた年であった。4月、5月、6月と入院患者数、外来患者数も順調に増加した。さらに7月から4病棟が回復期リハビリ病棟としてスタートを切ることができた。医師、看護師、リハビリスタッフ、MSWなど院内のスタッフが力をあわせてのプロジェクトの始まりであった。

図1 月別入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
患者数	2,246	2,884	3,303	3,235	3,292	3,257
入院	150	146	179	149	174	149
退院	142	114	171	174	151	161

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3,459	3,450	3,413	3,266	3,178	3,546	38,529
171	161	139	164	151	148	1,881
154	157	180	130	145	158	1,837

しかしながら、みすみ病院独自の医師の雇用が思うようにできず、少人数での診療を余儀なくされた。年間の入院患者数は述べ1,882名であった。患者は高齢者が多く、全患者の平均年齢は73歳（中央値74歳）、65歳以上の高齢者が71%を占めていた。図2に年齢別の患者数を示すが、70歳台が最も多く、次が80歳台であった。90歳台も8%と40歳台より多かった。入院患者の疾患分類を図3に示す。

多くの患者が元気に退院されたが、残念ながら治療もむなしく永眠された患者が119名あった。死亡原因は、悪性腫瘍が62例と最も多く半数以上を占めた。殆どの患者が緩和ケアの対象であった。（図3）

図2 年齢別入院患者数

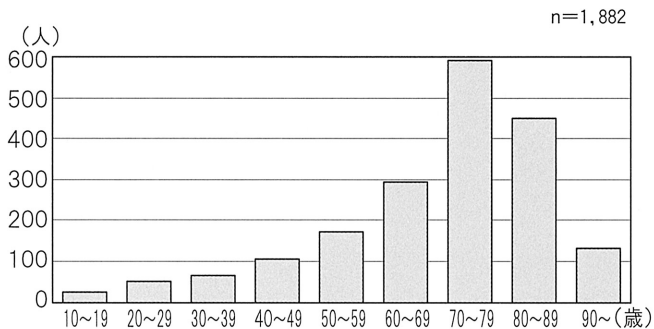
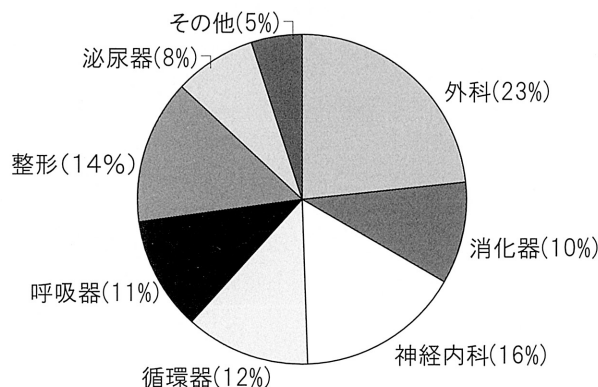


図3 入院患者の疾患分類

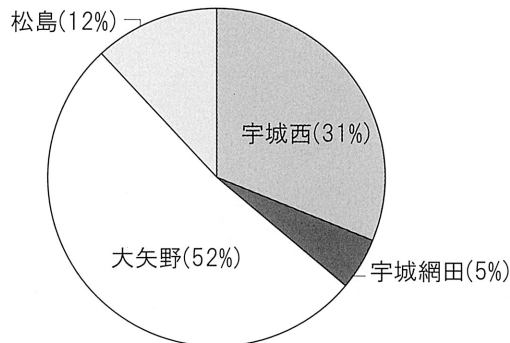


外 来

外来患者数も徐々にではあるが増加傾向にある。4つしかない診察室を最大限に活用して、外来患者数の増加に対応した。予約制も順調に稼動して待ち時間短縮に貢献しているが、予約時間に入りきれないほど患者が増加している整形外科の外来に課題が残っている。

救急外来は、年間患者数4,986例、救急車搬送は853台であった。救急車は大矢野52%、松島12%で天草が約2/3、宇城消防が36%であった。心肺停止状態での来院が24例あったが、残念ながら生存退院例はなかった。発見からCPR（心肺蘇生）開始までの時間が長く、救急隊到着まで5分以上かかることが殆どであり、さらに来院まで発見から30分以上を要することも問題がある。地方だからこそ住民への救急蘇生の教育が重要だと痛感させられる。

図4 救急車搬送内訳



三角・大矢野地域には、当院の他に救急病院がないため、もし、当院での治療ができなければ、搬送に1時間かかる熊本市内まで行かなければならない。済生会熊本病院は「断らない医療」を目指しているが、当院では救急患者に対して「断れない」という状況がある。医師は月に5回前後の当直を行いながら救急患者に対応した。